



♪ 夢よ とどけ 君と いっしょに
 夢よ とどけ 君と どこまでも
 Happy Doll Happy Doll 夢を 乗せて
 Happy Doll Happy Doll 風を 乗せて
 君は どこまで 行くのかな?
 ぞして だれと 出会うかな
 友だち たくさん つくうてね
 Happy Doll, sing with me
 (ハッピードール、わたしと歌って)

劇中歌「Happy Doll〜夢よ、届け」(一部抜粋)
 歌詞:ミュージアの夢の子どもたち



この日のために
 みんな練習
 がなりました!!



みんなで作った歌、ステキな歌詞だね



しあわせの人形に 願いをこめ

仙台市
 ミユーズ
 の夢

ねが

音楽の力

みんな

ひびかせたよ

「音楽バスで出かけよう みんなでいっしょに旅(たび)しよう。ステージから明るい歌声がひびきました。11月に仙台市青年文化センターであった「ミュージアの夢」のコンサート。さまざまなハンディのある子どもたちが音楽にふれ、楽しめる場を、と地元の音楽家らがつくった団体が、今年が10周年(じゅうねん)です。
 目の不自由な子や人とかかわるのが苦手な自閉症(じへいしょう)の若者らが、

ピアノやマリンバなどの曲をひろうし、手作り音楽劇(げき)も発表しました。子どもたちが歌ったり太鼓(たいこ)をたたいたりして、「ハッピードール(しあわせの人形)」を世界に旅立たせる話です。宮城県光明支援学校中学部1年の松友克弥くん(13)は「いっぱい練習したから、本番は上手にできた」とうれしそう。

ハッピードールは、子どもたちが手作りし、白い生地(きじ)に自由に絵やメッ

セージをかきました。「かほびんこども新聞」4月1日号でも紹介(しょうかい)しましたよ。

もともと「病氣などで外に出られない子どもに人形を送り、広い世界と出合ってもらおう」という願(ねが)いで生まれた人形。広めているアメリカの団体「Happy Doll(ハッピードール)」が、震災(しんさい)の被災地(ひさいち)の子どもを元気にしようと、ミュージアの夢に贈(く)るようになったのがきっかけでした。

Happy Doll代表の寺尾(てらお)のぞみさん(53)がアメリカから人形を持ってかけつけ、「みんなの演奏(えんそう)や歌に、無限(むげん)の可能性(かのうせい)と

愛情(あいじょう)の力を感じました」と話(わ)しました。

「Love You(大好きだよ)！ こんな言葉やアメリカの子の名前が入った人形をもらった子どもたちは、宝物(たからもの)のようにかかえて帰(かえ)りました。「まわりのサポートがあれば、みんな、ずばらしい音楽とステージを作れる。夢(ゆめ)と交流(こうりゅう)の輪(わ)も広がりました」と、ミュージアの夢の仁科(にの)篤子(あつこ)さん(57)。

「ハッピードールはいつも願(ねが)っています。世界中の子どもたちがしあわせにくらせますように。いってらっしゃい。また会(あ)おうね」。音楽劇(げき)の最後の場面で、みんながひびかせたメッセージです。